

■ 戦略経営研究会 166th ミーティング 議事録

日 時：2025年10月4日(土) 14:00－16:40

場 所：竹橋／ちよだプラットフォームスクウェア会議室+Zoom

タイトル：生成 AI をいかに失敗体験なしで導入するか？ ～導入と定着の解決策と具体例～

発表者：持田宏平さん(株式会社セラク みどりクラウド事業部 事業部長／Newton 事業責任者)

参加者：10 人（経営企画職、大学教員、会社員、FP、コンサルタント、税理士、
NPO 法人理事長、行政書士、司法書士等）

目次：

1. 生成 AI の可能性
2. 生成 AI の導入はなぜ進まないか？
3. 法人向け ChatGPT 導入・活用支援サービス「NewtonX」の機能と特徴
4. 「NewtonX」の導入事例
5. 生成 AI は次のステップへ

発表：

1. 生成 AI の可能性

2022 年 11 月、生成 AI 「ChatGPT」が公開されました。3 年足らずですが AI 市場が一気に変わりました。セラクの提供する法人向け生成 AI 導入・活用支援サービス「NewtonX」は元々自社のために開発しました。その後、他社へのサービス提供を始めました。今年 1 月、インタビュー形式の動画公告にて PR を行いました。それから 9 か月ですが生成 AI の性能はかなり進化しました。生成 AI はオートメーションと個人の力のエンパワメントを可能にすると考えています。

セラクはデジタルインテグレーションのための技術提供を行っています。私は農業 DX プラットフォーム「みどりクラウド」と「NewtonX」を担当しています。スマート農業の現場では新人アスパラガス農家が抱えていた問題がありました。アスパラガスの選別、秀品と優品の違いがわかりにくいというものです。ベテランにとっては簡単ですが、新規就農者には難しいです。選別に時間がとてもかかり、出荷時間に間に合わないということもあります。そこで、AI による選別支援を導入しました。結果は、違いがわかる農家となり、AI より早く選別できるようになりました。このため、AI 選別機はいらなくなりました。AI による選別支援は新規就農者のトレーニングになりました。アスパラガス選別に AI を活用することで得られた効果は、判断の効率化（早く正確に）と AI を超える選別能力を身に付けたことです。そこで考えました。セラクの業務に AI を導入したら、判断の効率化（早く正確に）と能力を高めることはできるのではないかと？ AI を活用して誰もが生産性を高められるのではないかと？

2. 生成 AI の導入はなぜ進まないか？

企業は生成 AI を使ってほしいと考えています。しかし、現場では導入が進みません。たとえば、情報システム部門は安全に使ってほしいと考えて、慎重なサービス選定を行っています。このため、導入が進みません。ユーザー部門は導入されたとしても自分の業務にどう活用してよいかわからない、プロンプトが難しい、よくわからないという状況です。使わない人は生成 AI からどんどん離れていきます。このため、活用が進みません。

生成 AI の導入を成功させるためにどうしたら良いのでしょうか？ まずは仕事の考え方を生成 AI モードに切り替えることができるかです。自分の思っている答えのためには文脈が与えられるかが重要です。これができるようにします。また、生成 AI は自分の業務で使えない、専門性が高いので生成 AI には不向きと考えている場合があります。もちろん生成 AI は知りません。であれば、そのナレッジを与える必要があります。これが RAG 機能（検索拡張生成）です。合わせて、生成 AI に情報を与えることが心配という場合もあります。仕組みでリスク管理すれば良いのです。

3. 法人向け ChatGPT 導入・活用支援サービス「NewtonX」の機能と特徴

誰もが能力を高められる（エンパワー）AI がミッションです。機能の一つは①シングルサインオンです。アカウントは一つですので、社内でアカウント管理を一元化できます。社員個人が生成 AI を直接利用すると、その社員が退社した際にアカウントを止めることができません。②誤回答防止機能もあります。生成 AI は平気で嘘をつきます。いわゆるハルシネーションです。生成 AI は知らないことでも、無理やり回答してしまい、結果として誤回答となります。NewtonX によれば生成 AI が知らないことは WEB 検索をして回答することができます。③機密性の高い情報の入力を自動的に防止機能もあります。情報漏洩を防ぐために入力フィルタリングを行います。個人情報、NG ワードを検出します。また、自動オプトアウトにより生成 AI の学習データとして漏れることもありません。④社内ナレッジを活用する機能もあります。たとえば、行政手続きに利用する場合は補助情報を事前に入力しておくことで、補助情報をもとに回答してくれます。

「NewtonX」の特徴として伴走支援があります。生成 AI を活用する上での懸念や課題のアンケートによると、AI 運用の人材・ノウハウ不足が 54% で 1 位となっています（複数回答）。伴奏支援として、プロンプト提供を行っています。合わせて、従業員が活用するための説明会・勉強会を開催しています。社内ナレッジ AI 作成支援も行っています。

4. 「NewtonX」の導入事例

A 社は海外者向け不動産会社です。既存の生成 AI を試してみましたが、使いこなせませんでした。社内では生成 AI は使えるの？という雰囲気となっていました。生成 AI 導入の課題としては、専門性のある業務への利用とプロンプトをより使いこなすことでした。そこで、伴奏支援として、専門プロンプトの提供と勉強会の開催を行いました。導入による効果は、幅広い業務に及びました。中でも翻訳業務については作業時間が約 50% になり、正確性も向上しました。微妙なニュアンスも翻訳でき、ネイティブ従業員によるチェックも不要になりました。

B 社は新電力事業者向けサービス会社です。社内向け業務に時間がかかっていました。付加価値の高い業務に時間をかけたいというニーズがありました。生成 AI の導入を行いました。モチベーションの高い従業員にしか利用が進まない状況でした。社内で格差が広がっていました。課題はどうやって全社に浸透させるかです。そこで、伴奏支援として、プロンプトが難しいと感じる従業員を対象に勉強会の開催を行いました。また、専門性の高さから自分の業務では使えないと感じる従業員のためにナレッジコネク（RAG）で対応しました。導入による効果は、たとえばプログラミング補助です。コード修正に利用することにより、導入前は半日から 1 日かかっていたのが導入後は 3 分で完了するようになりました。また、研修用の資料作成への活用により、負担が軽減するとともに、専門性の高い研修を開催できるようになりました。導入により生成 AI が個人の能力を高めることがわかりました。

5. 生成 AI は次のステップへ

生成 AI 活用は次のステップへ進んでいます。AI エージェントの登場です。自律的に成果を出してくれます。今までは To Do リストを人間が作っていましたが、To Do リストも作ってくれます。GPT-5 が公開されましたは、AGI（人工汎用知能）に近付いていると感じます。

生成 AI の進化と普及は業務にどのような変化をもたらすのでしょうか？ 生成 AI は個人が持っている能力を増幅するとともに、能力を早く高めてくれます。生み出す付加価値は、C-GPT、C-GPT+AI エージェント、C-GPT+AI エージェント+専門 AI ツールと生成 AI による自動化の波という段階ごとに上がっていきます。ユーザー側のジュニア、スタンダード、スペシャリストといった役割でも上がっていきます。現在、ボトムラインが上がってきています。ジュニア段階は付加価値を生み出せなくなりつつあります。この波に飲まれる前に、速やかにステップアップの必要があります。ビジネスにおいて頭数がいらなくなり、少数精鋭のほうが良くなります。これが、これからのビジネスの戦略の前提になります。

生成 AI による業務の自動化も進んでいます。いままでは人が働きかける必要がありました。プロンプトエンジニアが生成 AI に並走していました。これは生成 AI によるインパクトの序章に過ぎませんでした。定型的な作業を自動化する RPA（ロボティック・プロセス・オートメーション）は例外に弱かったのです。これからは生成 AI が判断を担うことにより、一気に自動化が進みます。人間は結果だけを確認する役割となります。生成 AI による業務の自動化は競争力の源となります。

以上